

# 文化の扉



異文化コミュニケーター

マリ・クリスティーヌさん

日本、米国、イランなどで育ち、異なる文化の橋渡しをする仕事をしています。多様な人々の価値観でできている都市は、まさに異文化理解の場。東京工業大学の大学院では都市工学も学びました。都市のデザインや景観の尺度は、パリやベネチアなら美しいですが、アジアの都市な

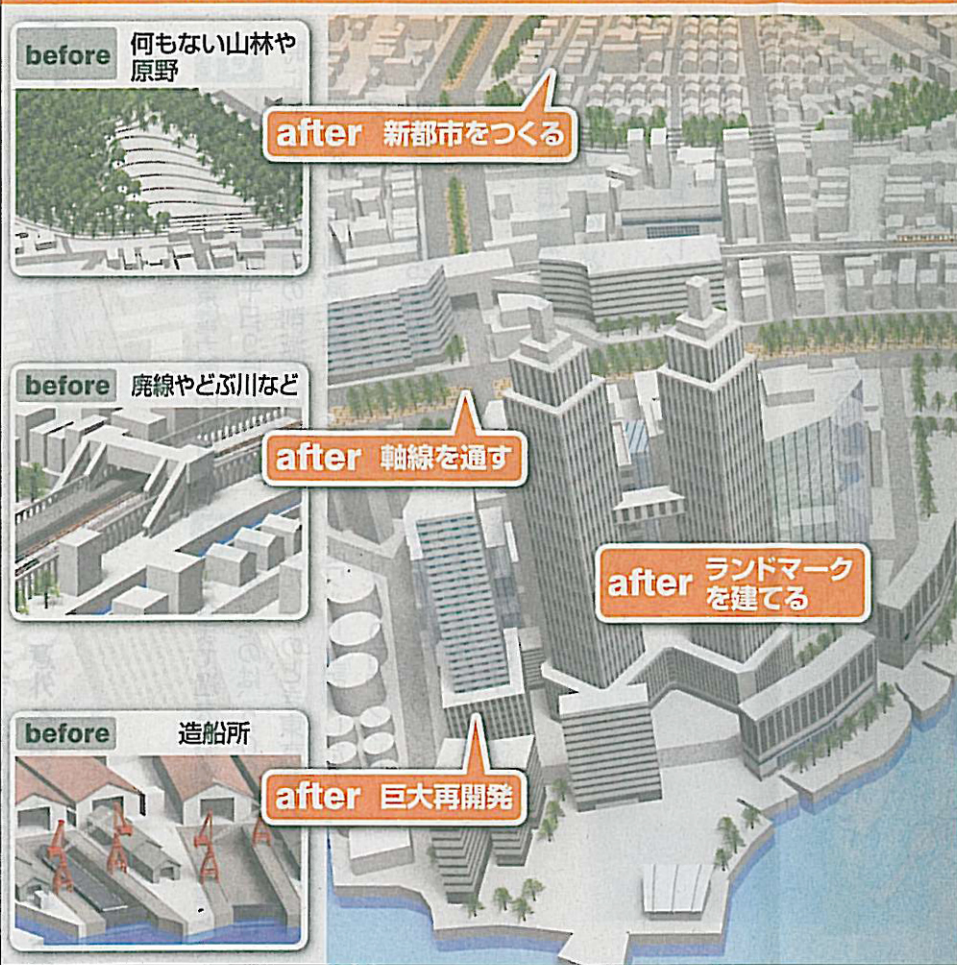
## 復興は人と文化大事に

ら、美しさより混沌とした楽しき。東京の場合は、古い部分と近代の共存がもつと分かれると魅力が増すと思えます。個々の建物も大切です。日本にも素晴らしいビルはありますが、アートとしてまで優れたものは少ない。きちんとした主張のあるデザインを社会の中で鍛えて育てていく必要があります。

都市とは本来、生活の質を向上させてくれる存在。そのために、社会システムも含めてデザインする。住民の「親切さ」といった心の動きだつて、その一部です。今回の震災の被災地は、以前から高齢化が進み、一人暮らしの方が多地域でした。復興では、人がそばに居ることが実感できる集合住宅が生まれるといいなと思えます。これからはより深く、私たちの文化を理解し、都市デザインを考えたいものです。

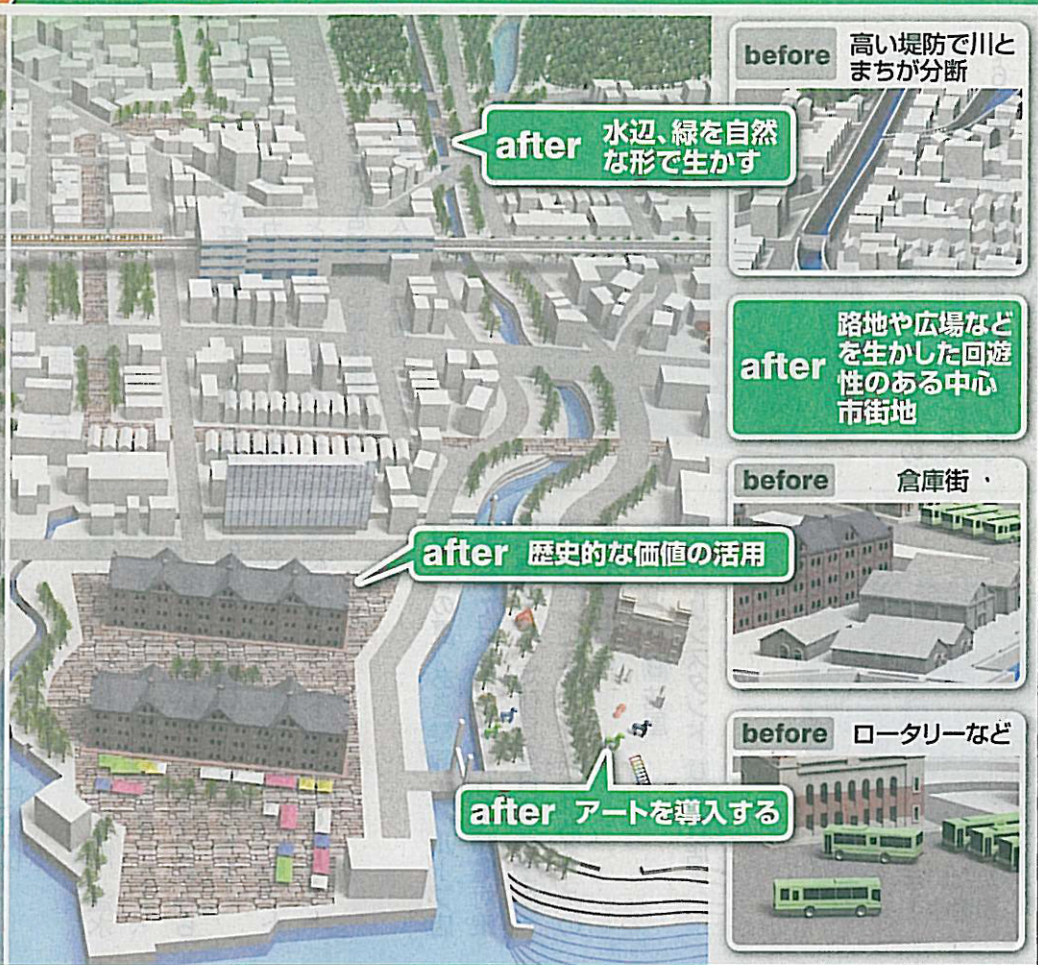
毎週月曜に掲載します。ご意見、ご要望はbunka@asahi.comへ。

### かつての都市デザインのイメージ (高度経済成長からバブル期まで)



グラフィック・寺島隆介 / The Asahi Shimbun

### いまの都市デザインのイメージ (バブル崩壊から21世紀)



# はじめての都市デザイン

## 歴史・風景…個性を魅力に

### 読む

田村明『美しい都市景観をつくるアーバンデザイン』(朝日選書)は、景観のとらえ方、歴史などを解説。関東大震災の復興に力を発揮した後藤新平を検証する『都市デザイン』(藤原書店)なども出ている。

### 訪ねる

優れた都市デザインは世界中にあるが、パリは過去と現在のデザインが同居。19世紀の改造で骨格が形成された。都心を貫くシャンゼリゼ通りが、軸となって郊外の新都心ラ・デファンスまで延びている。

### 見る

都市を巡る展示会も相次ぐ。東京オペラシティアートギャラリーでは16日~10月2日、「家の外の都市の中の家」を開催。横浜市の新港ピアでは8月6日~11月6日、「新・港村 小さな未来都市」が開かれる。

そもそも都市デザインとは何なのか。東京大学都市工学科の西村幸夫教授によれば、都市計画が容積率などの制度を中心に考えるのに対し、「モノの形や空間、視覚的な関係を軸に、都市を考え、魅力を増してゆく手法」だという。こうした考え方が確立したのは50年代の米国といわれる。もっとも、さかのぼって考えると、既存の街にいくつも目抜き通りを造った19世紀パリの大改造や、20世紀の豪州の新都・キャンベラ建設なども都市デザインといえた。日本でも、高度経済成長期まではとにかくスケールが大きかった。建築家の丹下健三氏は61年、「東京計画1960」なる未来都市像を発表。東京湾の上に都市軸と呼ばれる巨大な構造物を延ばす計画だった。現実にも、大阪万博

「高台移転」といっても、住民が親しんできた海との関係が重要。2次元の地図上だけでなく、どう海が見えるかを3次元で考えることも大切。地域の要となる祭りなどの空間の再生も必要だろう。横浜の取り組みの先頭に立った故・田村明氏は、都市デザインを「(都市全体を) 個性的で美しい人間のなにするための手法」と定義した。復興のために、そして身近な街づくりのために、この考え方は使えそうだ。(編集委員・大西若人)

高速道路を地下化して緑の軸線を通したり、商店街を青空たつぷりのモールにしたり、郊外にニュータウンを造ったり。日本のまちづくりの先進地とされる横浜市が都市デザイン担当を置いたのが1971年。ちょうど40年前のことになる。自治体の部署名や大学の学科、コース名としては定着している。普段はあまり意識されないが、実は私たちの身の回りの様々な所にあるのが都市デザインだ。

そして今回の震災。復興にあたり、津波に襲われた集落の高台移転や、商業や公共サービスが限られた地域に集まるコンパクトシティ化などが語られているが、東大の西村教授はこう指摘する。「高台移転」といっても、住民が親しんできた海との関係が重要。2次元の地図上だけでなく、どう海が見えるかを3次元で考えることも大切。地域の要となる祭りなどの空間の再生も必要だろう。横浜の取り組みの先頭に立った故・田村明氏は、都市デザインを「(都市全体を) 個性的で美しい人間のなにするための手法」と定義した。復興のために、そして身近な街づくりのために、この考え方は使えそうだ。

心地よく、美しく。都市の文化度を高めるために、都市デザインという考え方がある。震災復興で、地域や街の再生に注目が集まるなか、どんな意味を持つのか。

で未来都市的デザインが実現、大阪・千里や東京・多摩などに、巨大なニュータウンが誕生した。しかし、こうした流れはオイルショック後、景気後退や公害問題もあり、退潮。主流となるのが、歴史や風景など都市の個性を尊重し、住民の参加も得てデザインしてゆく手法だ。バブル期や近年の規制緩和などの場面では、巨大開発型デザインも一時浮上した。しかし、2000年には経済協力開発機構(OECD)が日本に「もっと都市デザインの質を高めよ」と警告した。これは、日本の規制が緩すぎて都市の魅力や競争力を損ねているという認識に立っている。この半世紀、行きつ戻りつしながら、大規模開発から人間的なスケールへという流れがある。